

特集

県下一乗降客のある

JR 船橋駅の24時間

広報ふなばし写真版

MAY 5月

vol 19

隔月年6回発行

街角特集 大船橋音頭発表会

第20回少年少女交歓大会

まちなかの文化財 二十三夜供養塔



PHOTO
ふなばし

特集

JR

船橋駅の24時間

県下第一乗降客のある



夕方のピークは午後6時から7時。下り電車がホームに停車。ドアが開くとホームはあっという間にお客でいっぱいになる。



1日約30万人の県下第一の乗降客がある船橋駅。2番目津田沼駅、3番目西船橋駅、4番目千葉駅。船橋がいかに交通の要衝で生活に便利な町であるかがわかる。



自動券売機のウラ側。25台の機械が午前4時から翌日の深夜1時すぎまで休みなく動いている。機械が発する熱で室内はかなり熱い。



午前9時の朝礼。「ありがとうございます」「ご苦労さまでした」…など接客7か条を毎朝唱え、サービス第一をモットーに安全運転に努める。



おなじみの自動券売機。終電車の時間がやはり気になる？



乗車率250%。通勤客の大半は東京へ向う。



午前4時、1番電車が来るのは午前4時25分。街はまだ静かだ。



朝のラッシュアワーは午前7時45分ごろから8時がピーク。ホームは通勤客であふれる。



午前7時40分

JR船橋駅の朝は多くの人々の活気と熱気があふれている。毎朝7時45分から8時までの15分間は、まさに一日のピークでラッシュの最盛時。JR船橋駅の乗降客は一日平均約30万人。これは県下で一番で、その乗降客数の大半が朝夕のこのラッシュ時に集中する。

JR船橋駅を利用する人の内訳は、京成船橋駅から乗りかえる人が約4万2千人。隣接する東武野田線船橋駅から約3万3千人。そして市北部や中央区、市街地周辺からバスなどでやってくる人達のいわゆる自駅乗車が約6万人と、実に多くの人達が毎日このJR船橋駅を利用して往々である。ちなみに乗降客数の多い順では、2番目が津田沼駅の23万4千人、3番目は西船橋駅の19万人。千葉駅は4番目で18万人となっている。

朝のラッシュは9時ごろになると一応の静まりを見せる。この間を利用し、駅務室では毎日恒例の朝の点呼、駅長訓示などの朝礼が行われる。船橋駅には現在75名の職員が勤務しているが、民間化された現在、職員達には職務に対する質、量の向上が求められている。船橋駅では特に、旅客サービスの充実に重点がおかれていると中村駅長は説明して下さった。

午前10時は周辺の大規模百貨店の開店時間。この時間に合わせて、またひとときりお客さんの量も増える。船橋は全国に誇れるほど鉄道の数の多い街。今、その豊富な鉄道網を生かして、活気にあふれた魅力ある商業環境づくりが着々と進められている。



午後5時過ぎになるとそろそろ家路に向かう人々の流れが構内に見え始める。改札口に立つ駅員さん達にも、「さあ」という気構えが感じられる。夕方から夜にかけてのラッシュのピークは7時ごろ。数分おきに電車が到着するたびに沢山の人が、いっきよに改札口へと急ぐ。バス停に向かう人、京成船橋駅へ向かう人、東武船橋駅に向かう人…。様々な人々の流れが、朝とはまったく反対の方向に向かって動いて行く。花の金曜日はラッシュの時間帯が広いという。女性もかなり遅い電車で大勢帰って来る。

JR船橋駅の最終電車は、上りが午前零時8分、下りは1時14分だが、最終の津田沼行きが意外と混み合っている。駅北口のタクシー乗り場からの長い列はすでに延々と伸びている。

明治27年7月、千葉県に最初の鉄道として総武線が開通し、それと同時に開業したこの船橋駅。昭和62年4月、従来の国鉄からJR東日本鉄道株式会社として、その組織は民間化され、新たなスタートが切られた。

大橋和夫市長の下、「活力ある近代的都市づくりを進める本市の表玄関として、JR船橋駅のはたす役割りはあまりにも大きい。」

南口駅前通り





夕暮のJR船橋駅北口。昭和65年には地下公共駐車場が完成するが、駅周辺の開発が行われると鉄道のお客も増えるという。



午前1時。すでに最終電車が行ってしまった上りの車線では、作業員によって入念にレールのチェックが行われる。安全運転を支える重要な作業だ。



明日はまた大勢の人々がここを歩き交う。



愛称募集で決まった「E」電のマークが初々しい。



旅のアドバイザー役、旅行センターも好評。



夕方のラッシュのピークは午後6時から7時。この時間の改札口はすごい。



船橋駅には1日872本もの車両が入ってくる。安全確認も大変だ。



3月31日午前零時、国鉄からJRとなる。その1番切符を手に入れようと待つ若者。



ほんの2坪足らずのKioskには300品目以上の品物が並べられている。



1日の仕事を終え、家路へ向う人々。女性の乗客が最近目だって増えたという。

青少年の健全育成とコミュニティーづくりの拠点 武道センターが完成



6月2日、市場小学校隣に「船橋市武道センター」がオープン。すもう、柔道、剣道、フェンシング等の公式試合や練習に活用できます。利用できる時間帯は午前9時から午後9時まで。使用に際しては予約が必要です。くわしくは武道センターにお問合せ下さい。
☎220122



辞令交付も済み、今日からJR職員。早速JRのポスターを構内に貼ってPR。



4月1日、午前零時1分、中村村長から職員一人ひとりに辞令とJRバッチが手渡された。民間会社となつて旅客サービスの一層の向上が要求される。

大船橋音頭

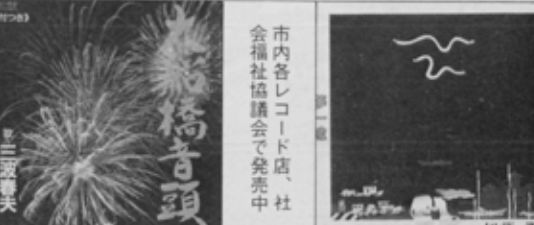
大豊高から
大きか
にから



テレビ局の取材を受ける
民謡民舞連の人達。

市制50周年記念愛唱歌

| | |
|----------------|---------------|
| 大船橋音頭 | 海に見える街で... |
| 作詞・歌 三波春夫 | 作詩・作曲 伊藤 薫 |
| 作曲 遠藤 実 | 歌 伊藤 薫 |
| (B面 カラオケ) ¥500 | (B面 夢一途) ¥500 |



市内各レコード店、社
会福祉協議会で発売中



三波春夫さんの生の歌声に合わせてたくさんの市民が
輪になって踊り、会場は熱気につつまれた。



大船橋音頭に合わせて手拍子をする会場の市民。

スポーツで健康船橋こんにち

船橋市スポーツ健康都市推進委員会



歌作り
について話し合う三波春夫さんと大橋和夫市長。

今年で20回目の交歓大会。毎年行われるこの大会
を通して子ども達の友情の輪が広がっていく。



参加団体の表彰をする大橋和夫市長。



家族連れで楽しい一日。



起震車の体験乗車も人気の的。

子供の日の5月5日(火)、市内の元気な子供たちを集めて、第20回記念船橋市少年少女交歓大会が夏見運動公園で開かれました。当日は、夏を思わせるような陽気となり、会場は約二万二千人の子供たちで大賑わい。迷路、ぶっつけ野球に風船つりなどの各コーナーは、一日中、元気な歓声であふれていました。

今年市制50周年。ワンパク王国の建設を始めとして、未来を支える子供たちのために、船橋市は今、活力ある近代都市づくりを市民と共に進めています。

市制50周年記念

広がる
友情の輪

第20回 少年少女交歓大会



神保新田十字路口に立つ二十三夜塔。

まちなかの文化財

⑱ 二十三夜供養塔 (大神保町)

鉄人は荒野を渡り林の中の一木道を急ぐ。遠くやって来て今、道は十文字に分かれている。辺りに人家はない。真青な高い空と、山の小鳥たちの囀りばかり。神保新田の十字路の真ん中に、大きな「二十三夜供養塔」が立っていた。二十三夜塔というのは本来、月待りの信仰の石塔だが、この塔は「道標」としても作られていた。東へ往けば「舟尾むら」、西へ往けば「大じち」と刻んでいた。文政二年(一八一九)十月というから、大田蜀山人、安藤重、式亭三馬等々、数多くの江戸の文人墨客がここに活躍していた時代のことだが、土地の白井興徳右衛門講中の者が相寄り、長福寺の惣全住職、地蔵堂の浄念庵主に魂を吹き込んで建てた。

現在は道の真ん中にはない。果民の森の入口に移されている。近くに市営大神保キャンプ場もあり、この一帯、目のさめるような新緑。さらに今年秋には市制50周年記念事業の起目玉「ワンパク王国」がオープン予定。知橋のこともちたてていっそう賑わいを増すだろう。「二十三夜塔」かいわい。

中央保健センター 夜間急病診療所

☎232111

平日・休日を問わず、毎日午後9時から午前6時まで、市医師会の医師による内科・外科の診療を行っています。保険証をご持参下さい。



老人憩の家を併設した 塚田児童ホームがオープン



4月29日、塚田児童ホームが前貝塚町にオープンしました。市内で13番目となったこの児童ホームでは、18歳までならだれでも卓球をしたり本を読んだり、楽しく遊ぶことができます。(幼児は保護者の同伴が必要です)。「老人憩の家」も併設されている塚田児童ホーム。みんなで遊びに来ませんか。

☎9299

交通量も増えた神保新田十字路



市制50周年記念市民愛唱歌「海に見える街で…」の制作発表会が、5月24日(日)、市民文化ホールで行われました。ステージでは、「海に見える街で…」をはじめとして「夢一途」やおなじみの「ラブ・イズ・オーバー」などが歌われ、伊藤薫さんの優しいメロディーが、詰めかけた約1,000人の市民を魅了しました。伊藤さんは、数多くのヒット曲を手がけた市内在住のシンガー・ソング・ライターで、今回の市民愛唱歌も普段の生活の中から作り上げたということです。いつまでも市民に親しまれる歌になることでしょう。

船橋市はことし 市制50周年です…



伊藤薫さん(左)と大橋和夫市長



編集だより

今回は千葉県一乗降客数の多いJR船橋駅を訪ねました。中村駅長さんをはじめ、駅員の皆さんのご協力によりなんとか始発から終電車まで、その一日を撮ることができました。船橋駅には沢山の人の生活と活気があふれていて、その潜在パワーがひしひしと伝わってくるようでした。船橋市は今年市制50周年を迎えましたが、このような記念の年にこそ、私達は「今」の現実の姿をしっかりと見届けてゆくことも大切な作業のような気がします。

さて、5日の少年少女交歓大会、10日の大船橋音頭発表会、そしてこの24日のイメージソング発表会など今月に入って50周年記念事業も活発に動き始めています。今号では、それらを全て掲載したため、発行が遅れてしまいましたが悪しからずご了承下さい。このPHOTO船橋も次号で早や20号目を迎えます。編集者自身のレンズを改めて磨き直し、「船橋の街と人々」を撮りつけ、皆さんに親しんでいただける物に育ててまいりたいと考えています。